

令和5年度 第2回学校運営協議会 報告

1 日 時 令和5年6月13日(火) 午前9時30分から正午まで

2 会 場 本校 会議室

3 出席者等

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校長(地域コーディネーター)

【委員②】中村町自治会長

【委員③】静岡市大里生涯学習センター長

【委員④】ありんこの里管理者 欠席

【委員⑤】JA静岡中央会組織広報部長 欠席

【委員⑥】本校PTA会長

【委員⑦】小糸製作所人事部企画課 欠席

(2) 校内教職員

校長、副校長、事務長、幼稚部主事、小学部主事、地域支援部長、教務課長

4 会議次第

(1) 開会 校長挨拶

(2) ふれあいタイム(校内参観等)

(3) 協議等

(4) 閉会

5 協議等内容

(1) 学校経営計画の進捗状況について

ア 取組目標について

- ・7月に一回目の学校の自己評価をしていく。
- ・自分の命を守る防犯及び防災等安全教育の充実については、訓練のやり方を見直した。教職員が主体的に動けるよう、実施計画で細かい流れを示さず、マニュアルに基づいて行うこととした。訓練実施後の振り返りを大事にしていきたい。
- ・子供が対話的協働的に学ぶ授業実践については、研修課と自立活動課で協働し、聴覚障害の専門性を示した「スキルちゃん」を意識した授業ができているか評価する取組を始めていく。
- ・それぞれの学部外部講師を招き、授業について指導を受ける機会をつくったり、教員が授業研を行い見合ったり、管理職が助言したりする取り組みを6月から始めていく。
- ・キャリア教育の視点での幼小中学部の指導のつながりと進路指導の充実について。学校の中だけで必要な力ではなく、将来、社会の中で生きていくための力を育てるために学校で学んでいることを教員が意識したり、子供たちが将来こんな生活をしたい、こんな大人になりたいという意識がもてたりする教育活動をしていく。夏には外部の講師を呼んで研修も行う。
- ・特別支援学校のセンター的機能の推進と充実及び関係機関との連携の強化については、乳幼児教育相談の教員の中にアドバイザーを配置しているので、アドバイザーの専門性を活かして取り組んでいく。
- ・県立総合病院の言語聴覚士と連携を図っている。教員が病院に出向たり、言語聴覚士が

学校に来てもらったりして勉強する機会としている。

- ・現時点で教育相談を42件行った。校内だけではなく校外の人たちと連携をしながら進めている。

イ 幼稚部について

- ・不審者対応訓練の次の日に、不審者が確保された動画を見せるととても安心をしていた。子供たちがイメージをもって訓練に参加できていたと思う。
- ・外部講師の先生を招き、研修会を行った。「伝えたい気持ちがあふれる授業づくりのためには、子どもの気持ちや頭の中を想像して受け止め、それを言葉にしていく。その結果子どもとの信頼信頼関係ができ、気持ちがどんどんあふれてくる。」という助言をいただいた。
- ・キャリア教育については、今週末に卒業生のお母さんの話を予定している。
- ・関連機関との連携では、先日、年長が中原幼稚園に交流に行った。直接、触れ合うことの良さを改めて感じた。

ウ 小学部について

- ・防犯防災の前後で動画を見て学習をした。訓練でやったことを動画で振り返ったことで、実際の場面でどのように動けばよかったかを確認できた。
- ・友達の話をきちんと聞いたり受け止めたりする話し合いのルールを作って、子供と一緒に考えながらやっている
- ・キャリア教育の視点で、朝の会や帰りの会の話し合いを大事にしている。学年を超えて縦のグループで話すことによって上級生の姿を見て下級生が真似をしたり、上級生も下級生のモデルとなろうとしたりする姿勢が見られている。

エ 中学部について

- ・友達の良いところを見つける「友達のナイス」という活動を行っている。友達のいろいろな面の良さを感じたり、自分の良さに気づけたりする活動を行っている。
- ・委員会活動で、生徒だけで話し合う場面が活発に行われている。
- ・キャリア教育では、4月に個々に立てた目標の振り返りを、ICTを使って行った。ICTの良さは、書き込んだものを振り返ったり、加えたり、整理したり、見返したりできることである。

オ 地域支援部について

- ・幼児教育相談マネージャーが、週の2日来校し、若手の先生に助言をしてくれている。
- ・教育相談件数は現時点で45件、昨年度200件だったので、昨年度より増加している。
- ・在籍校とのつながりを大事にした通級指導を行っている。6・7月で通級生の在籍校に行き、先生方と懇談をしたり、子どもたちに難聴理解授業を行ったりしている。
- ・県立総合病院の言語聴覚士に来校していただき、乳幼児の教育相談や指導に参加してもらい、指導内容の充実を図っている。

(2) 「社会に開かれた教育課程について」の共通理解等（副校長から提示）

- ・この社会に開かれた教育課程を実現するために、学校運営協議会を行っている。
- ・社会に開かれた教育課程は、今の学習指導要領の基盤となる理念である。
- ・現在の学習指導要領で子供たちに身につけてほしい力は3つの柱で整理されている。1つ目は知識及び技能、2つ目は思考力判断力表現力、3つ目は学びに向かう力、人間性である。そして、大事なものは3つの言葉の前に書かれている言葉である。
- ・1つ目は、実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能である。子供たちが今この学校で身につけてる知識や技能は社会や生活の中で生きる知識や技能であるということである。

- ・ 2つ目の思考力、判断力、表現力は、未知の状況にも対応できる力が必要だということ。これからは、コロナとの共存やAI技術の急速な進歩など、私たち大人も経験をしたことのない状況になる。また、人口減少も急速に進んでおり、働き手が不足することも予想されている。それらに対応できる思考力、判断力、表現力を身につける必要がある。
- ・ 3つ目の学びに向かう力、人間性は、学んだことを人生や社会に活かす力である。地球温暖化などの世界的な課題も解決し、持続可能な社会を創って行く力が必要であり、学校で学んだことを自分の人生や社会の課題解決のために使っていく。そんな力が必要とされている。
- ・ 子供たちは社会とのつながりの中で学ぶことで未来に向かって進む力を得ることができる。学校と社会は、より良い学校教育を通じてより良い社会を作り出すという目標を共有し、子供たちの必要な資質能力を明らかにしながら、地域や社会と協力して学校教育を進めていく必要がある。

(3) 協議（各委員から）

- ・ 大事なことは経営書や学校要覧にのっている教育目標と、学校運営協議会をとおして行う活動をどう結び付けて子供を育てていくかだと思う。
- ・ 地域のお年寄りと直接会話をする機会を持つことは、すごく良い経験になると思う。
- ・ 家庭の教育力が下がり、学校が子どもの人格形成まで責任を負うのはすごく大変な時代になったと思う。子どもたちの成長に少しでも中村町の力が役に立てばうれしい。
- ・ 奉仕作業が行事で終わってしまうのではなくて、その後の反省会が大事だと思う。生徒と町内の人の意見交換の場みたいなものがあつたら、すごく心に残るように感じた。
- ・ 子供たち自身が奉仕作業を振り返るような場面を設けられたらもっと良いものになる。
- ・ 生涯学習センターと名称が変わったのは平成20年度で、それまでは公民館という名称だった。位置づけが従来の社会教育施設から学びを応援する施設に変わった。
- ・ この学校は、この地域の子どもたちだけが通っているわけではないが、地域とのつながりをすでに築かれているが非常に必要なことだと思う。
- ・ わが子の授業参観に行くと、一番上の高校生と、一番下の小学生を比べても授業の形態がすごく変わっている。小学生は、一人一台PCを家に持って帰って勉強したり予定を確認したりしてる。英語が始まったり、プログラミングが始まったりしている。
- ・ この学校の子どもたちにとって、校外の方と接する機会があるだけでも意義がある。あまり難しく考えずに、接する機会を増やしていくと考えるだけでも充分ではないかと思う。

(4) 地域社会と協働した取組と子どもたちの様子について（副校長から紹介）

ア 登下校の見守りについて

- ・ 4月から中村町町内会の静岡南警察署の地域安全推進担当の林様が毎日子どもたちの登下校を見守ってくれている。
- ・ 火曜日には鍋田様と鈴木様も見守りに参加してくれている。
- ・ 子どもたちは、林様の顔を見ると自分から挨拶をしたり、別れ際にお礼を言ったりと良い表れが見られる。
- ・ 子どもたちに学校運営協議会で、地域の方に伝えたいことがあるかと聞くと、「毎日見守ってくれていて安心して通えている。ありがとうございます。」と伝えて欲しいといていた。

イ 奉仕活動について

- ・ PTAの奉仕作業には、中村町や保護者の方々の御協力のもと、72人の参加があつた。

- ・事前の準備では、鍋田様がポスターづくりを生徒に依頼した。頼まれた生徒は、周りの中学生に協力を依頼し、素敵なポスターを作りあげた。
- ・当日は小学生や中学生が一時間、黙々と作業をした。特に印象的だったのは、側溝の掃除で、中学生の男子生徒が初めて会う方と、すぐに打ち解けて笑顔で活動をしていた。
- ・最初と最後の会では、生徒会長が堂々と司会進行を行っていた。
- ・最後に小学部や中学部の子どもが参加者にジュース配りをしたが、子どもたちが自主的にジュースをもらっていない人を探して、渡す姿が見られた。
- ・地域の方や保護者と一緒に活動することで、子どもたちは、社会とのつながりを感じることができた。

(5) 協議（各委員から）

- ・子供たちが、地域の方と一緒に取り組む奉仕作業の中で、自分ができることを探していることは、社会に出た時の力そのものであると思う。
- ・子供たちが、「私たちを見守ってくれる大人が身近にいる」ことを感じてくれていることだけで、登下校の見守りは半分成功だと思う。
- ・地域の方が自分たちのことをどう思ってくれたかを、子ども達が知ることが大切だと思う。「中学生なのにこんなに働けてすごいね。」という言葉をかけていくと、子供達は成長していくと思う。
- ・この学校は地域の子どもたちだけが通う学校ではないが、地域に愛されて、このようなつながりがあって、素晴らしいと思う。

(6) 今後の地域や社会とつながる活動予定について（副校長から紹介）

- ・以下のことについて、連携をとりながら無理のない形で進めていきたいのでお願いします。
- ・田んぼでオタマジャクシをとらせてほしい。
- ・10月に稲刈りの様子を見学させて欲しい。
- ・JAさんに学習で使用できる素材を教えて欲しい。こちらは、もう紹介があって、依頼をしているところである。
- ・小学部の社会科で米作りを学びたい。
- ・地域のお年寄りに生活で困っていることや助けて欲しいことなどが無いかな教えて欲しい。
- ・ありんこの里さんには、生徒の職場見学をお願いしたい。

6 閉会・連絡事項

- ・今日は実際に子どもたちとも触れ合っただき、今後の方向性について御意見いただき貴重な時間となった。
- ・次回の3回目も、学校の取り組みの報告をして御意見をいただきたい。
- ・次回は8月4日の9時30分から11時で行う予定である。